



清 滝 っ 子

豊岡市立清滝小学校

学校だより 第7号

令和5年7月10日 発行

かぼちゃの話

7月に入り、真夏を思わせるような晴天とじめじめと蒸し暑い梅雨空が交互にやってきます。太陽の光と雨を受けて、草木もどんと茂っています。

畑にも、夏野菜が育ち、食卓に並ぶようになり

ました。カボチャも夏野菜の一つです。カボチャというと、秋のハロウィンに使われたり、12月の冬至に食べる風習があることなどから、夏のイメージは薄いかもしれませんが、収穫は夏の時期です。

カボチャはとても生命力の強い野菜で、地面に捨てられた種からでも芽を出し、雑草にも打ち勝って、つるを伸ばしていきます。空をめざして伸びていくカボチャのつるのように、「清滝っ子」のみなさんも、元気に成長してください。



演劇ワークショップ 1年生

6月16日(金)、1年生が「演劇ワークショップ」を体験しました。3名のプロの演劇指導者(ファシリテーター)といっしょに、テープを床にはりつけて「舞台」をつくり、舞台に入ると「なりたいもの」に変身できるという設定で、「何に変身?あてっこゲーム」をしました。ゲームは大盛り上がりで、次々と舞台に立ち「なりたいもの」を演じました。また、授業後の振り返りの中で、指導者のみなさんが、1年生の発想力の高さに、とても感心していました。こうした演劇的な活動が「非認知能力」を高めることにつながっていくと思います。

この取り組みは、市内の全小学校の1年生と一部2年生を対象に、年3回が予定されており次回は2学期です。



かぼちゃのつるが

かぼちゃのつるが

はい上がり

はい上がり

葉をひろげ

葉をひろげ

はい上がり

葉をひろげ

細い先は

竹をしっかりとりにぎって

はい上がり

短くなった竹の上に

はい上がり

小さなその先たんは

いっせいに

赤子のような手を開いて

ああ 今

空をつかもうとしている

原田 直友



「非認知能力」について

社会は、今、変化が激しく予測が困難な時代を迎えています。こうした時代をたくましく生き抜くためには、変化に対応できる力が求められます。

子どもたちにこうした「生きる力」を育むためには、「非認知能力」とよばれる「やり抜く力、自制心、協働性」などの数値に表しにくい能力の向上が重要であると指摘されています。

この非認知能力を向上させるためには、演劇やダンス等を用いたアウトプット(出力)型の学習が有効とされており、豊岡市では、演劇的手法によるコミュニケーション教育や演劇ワークショップを実施しています。

校外学習 2・3・4年生

6月には、校外での学習が、たくさんありました。各学年が現地まで出かけていき、地域の自然や産業、社会の仕組みなどについて、実際にその仕事に携わる方からお話を聞きました。学習は教室や学校内にとどまるものではなく、地域全体を「学びの場」として、校外での学習に取り組んでいます。

2年生：学校の近くにある駐在所、郵便局、コミュニティを訪ね、仕事についてお話を聞きました。

3年生：十戸地区に出かけ、きれいな湧き水を利用したワサビ田とニジマスの養殖所を見学しました。神鍋に降った雨や雪が地下水となり、長い年月をかけて、清水として湧き出ています。

4年生：豊岡市内のカバン会社と太田地区にあるハイランドホテルに出かけました。カバン産業の歴史や、神鍋スキー場の開発や観光業などについて、学びました。



自然学校を終えて 5年生

6月19日（月）～23日（金）、3泊5日の日程で、令和5年度の自然学校を実施しました。

自然学校のテーマ「広げよう 友達の輪 感じよう 大自然」のもと、清滝小学校16名と三方小学校17名の合計33名が、豊かな但馬の自然の中で交流を深め、充実した体験活動ができました。

自然学校前半の3日間は天候に恵まれ、スノーケルや漕艇体験ができました。4日目の瀬川山（とろかわやま）の登山では、標高1039メートルの山頂をめざしました。途中から霧雨にも降られましたが、最後まで登り切りました。また、キャンプファイヤーが屋内でのキャンドルファイヤーになりましたが、スタンツやゲームで盛り上がり、自然学校最後の夜を楽しみました。

